

第12回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年12月5日 午後7時00分～午後9時15分	記録者	【学生補助員】 渡辺・久保田
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：17名 傍聴者：2名 （区民委員：11名 学識委員：1名 区職員：5名）			
■配布資料 ① 第11回会議録 ② 廣江先生説明資料（新宿区民会議第5分科会—中間発表会に向けて—） （「新宿的」産業を考える—11月28日新宿まちづくり学講座資料）			
■進行内容 1 はじめに 2 廣江先生より 3 グループワーク 4 発表・意見交換 5 まとめ 6 中間発表会ワーキンググループより報告 7 事務連絡			
■会議内容 【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員 1 はじめに ○： 配布資料の確認（2点・資料3部） 本日の分科会の進め方について 以前からお知らせしていますが、中間のまとめの発表会を2月19日に行います。 それに向けて、そろそろ具体的な作業に入っていきますので、本日は廣江先生より 今後の作業、方向性について、お話していただきます。よろしく申し上げます。 2 廣江先生より ◎： 前回の会議録を拝見いたしました。私が今日お話することは資料が配付されてお ますから見ていただければと思います。一番お話したかったのが図書館の例です。 図書館でも、どういう図書館をつくるかという考え方がいろいろあります。です から、新宿の中の図書館の役割というのを、もっと自由に発想して具体的な提案に まとめいただければいいかなと思っています。で、いきなりやり方を変えてしまっ			

て恐縮なのですが、お手元の前回の会議録の7ページをお開きください。3班の方のお話が出ているかと思えます。非常に面白いなと思ったのですが、これを例にこれからこういうふうにとまとめてみませんかというお話をしたいと思えます。前回3班だった方おられますか。(挙手)この中で「歩きたくなるまち新宿」これはグランドデザインですよね。これを「住みたくなるまち新宿」にしてもいいのではないかとありますが、では「住みたくなるまち新宿」を大きなテーマにした場合にはグランドデザインはどう変わるのでしょうか。いかがですか。

- : 「歩きたくなるまち新宿」というのは、新宿区民ももちろんですけれども外からも含めてですよね。それもいいのですけれども、どう違うかというお返事になっているかわかりませんが「住みたくなるまち新宿」というのはやはり新宿区の住民が基本になっている感じかなと思えます。逆に「住みたくなるまち」ではなく「歩きたくなるまち」にした意図はどのへんにあるのかなと逆に聞きたいと思えます。
- ◎ : それはまたいろいろ尋ねる機会があると思えます。まずそれで考えることにあたり「ビクターズ産業」という言葉がありますが、多くの人に新宿区に来ていただいて、新宿区でお金を落としていくというところがあると思うのですよね。それに対して「住みたくなるまち」というのは今住んでいる人がもっとより良く暮らすということがあると思うのですが、それから新宿区にいない方が新宿区に住みたくなるということもあると思うのですよね。そうすると、そういう問題の考え方をした場合、グランドデザインをどう書き換えたら良いかという提案を私達はするというそこに行きたいわけですよね。それがここで考えることです。そういうふうこれから考えていきたい。ではなぜ「歩きたくなるまち」なのか、「住みたくなるまち」をそんなに重視していないのか。そうではないという話になったら確認した上で、もっと「歩きたくなるまち」に対して「住みたくなるまち」を強調しましょう。だったらどうするか、あそこに書かれていることが変わるかですよね。それが基本計画に影響するかどうか。そういう問題の立て方をしていってなるべく具体的に。ここが問題だと言っているのではなくて、ここが問題だと考えたらどうするのかという分科会としての意見をつくっていききたい。例えば、私が「歩きたくなるまち」と聞くと、「歩き回りたくなるまち」ということなのか、それとも「車を降りて歩きたくなるまち」というのか、いろいろ考えられるわけですね。前にも言いましたけども私自身は新宿区という自治体でどこまで行けるかというのが疑問ですけども「歩きたくなる」という場合に車を降りよう、今のように車を前提にしたまちづくりというのは長期的に考えるとおかしいだろう。商店街にとってもいいことない。目白通りがはっきりしていますけども、あんなに幅広い道路で商売するというのは商店街として機能しないということもあるわけです。では今のまち並みの良さ、神楽坂もそうですけども防災も考えた上で、道路というのがどうあるべきかという時にやはり車というものをどう考えるのか、非常に大きな問題ではないかと思えます。であれば

利便性を高めるためには公共交通機関をどう維持するかということになってくるのですね。池袋では路面電車を復活させるという事を、区役所もあげてやっているようです。そこまでいくかどうかを別にして、そうすると問題の立て方によって中身が変わってくるという議論だと思います。それから3班の中で私がとても大切だと思ったことは会議録8ページ・「新宿区の人口が増えるのはいいことですが、例えば、ワンルームマンションなどに住む単身者人口が増えるだけでいいのか、若い世代を増やすような人口構成がいいのか、何を目標にして考えているのか、というのもひとつの課題です。」のところですね。ひとつの課題ですというように評論家のように言わないで、どうしたいのかということをやはり言いたいですよ。第5分科会としては、単身者が増えるのはいいことだけでもワンルームマンションという形でもいいのか、あるいは、もっと、若い家族が住めるように、江戸川区は助成金を出していますが、そういうふうにするのか。要は人口が増える中身をどう考えるかということが先程の問題にも関わってきますよね。そこで、この場で価値評価を明確にして、それを具体的に第5分科会としてこうあるべきだということまで持っていくということが、これからの課題になってくると思います。そういう作業を今日も含めてやっていくことが必要ではないか。そのときに「新宿区で出来ること」と「出来ないこと」、「都がやるべきこと」、「国がやるべきこと」、「住民がやるべきこと」などたくさんあるわけですよ。そういうことを仕分けしながら、どういうことを第5分科会として具体的に提案するのかということが中間報告に向けての作業になると思います。それはおそらく粗い作業かもしれませんが、問題を一步でも二歩でも具体的に私たちは考えていきたい。7ページに戻ると、「新宿区に多くの文学者が住んでいた」という話も出てきますので、このあたりの新宿区の持っている文化資源をどうするのかということもあります。以前、区民委員の方が紹介してくださった「新宿景観フォーラム発言集」があります。私も3冊だけ入手して読みましたけどなかなか面白いですね。ここまでせっかくやったのだから、ここからスタートしなければいけないのですが、私も初めて知ったので残念だったと思います。ここでは「景観」を中心にして、様々なことを言っているのでもいろいろ材料になることもあると思います。その材料をもとにどう整理したらいいか、第5分科会でテーマとしている3つのカテゴリーで、具体的な第5分科会としての結論が出せると思います。そういうふうに行ってほしい。お手元のパワーポイントの資料の「中間発表会に向けて」の2枚目、左下、「7」と書いてあるところですね。扱うべき点はランドデザインについて私たちはどう考えるのか、どういう意見を言うかです。それからランドデザインに関わって、過去のものを見ながらこれからの都市マスタープランがどうあるべきか。それから基本構想、基本計画、これらのものに対して具体的にものを言うていく必要があると思いますが、まず、ランドデザインが一番の中心になると思うので、これについてどういう意見を持つかということ、具

体的にこうあるべきだということにもっていきたい。それを考える上で、資料3ページ左上（パワーポイントの9ページ）、第5分科会で扱う「産業、文化・観光」の 카테고리の中でいろいろ皆さんが考えていること、あるいはやってきたこと、それからやりたいと思っていることがあると思います。要するに、どうやって考えていくかという時に、ランドデザインがこういうふうに言っている、そこで第5分科会で扱うことで何が出来るのかという、ランドデザインを中心に私たちが考えることを整備するというのが一方であります。それともう一つは、皆さんはいろいろやってきた事があると思うのです。それと素材シートを出していただいたように、いろいろ知っている事もある。そういうものを第5分科会の3つのカテゴリーで、どうやってこれからやっていこうか。新宿区はそれによってもっと楽しいまちになると考えたときにランドデザインがどう書かれるべきかという逆の方法ですね。双方をフィードバックしていく必要がある。ですからランドデザインは出来上がったものとして考えないで、それも一つの案ですから、あれに対しても第5分科会としてはこういうまちであるべきだということを考えていく。だとしたらランドデザインはこう書かなくては、そういうご提案があってもいいと思います。なるべくそれを具体的にやっていきたい。前回、かなりいろいろな視点が出てきていますので、「課題」だということでは止まるのではなくて、どうするんだということまで今日はやっていきたいと思います。私の説明は以上です。

3 グループワーク

- ：先生ありがとうございます。ではグループワークですが、2班に分かれていただきます。先生からお話がありましたが、ランドデザインについて、第5分科会としてどういう提案していくかという内容のグループワークをしていただきます。本日は模造紙とポストイットがあります。皆さんからの意見を模造紙に貼り付けていただきながらテーマを整理する形を取りたいと思います。ではお願いいたします。

4 発表・意見交換

- ：それではお話が続いているかと思われませんがよろしいでしょうか。本日の意見を貼っていただいた模造紙については事務局の方に提出していただきます。事務局で整理し、後日、シートにしてまた皆さんにお渡ししたいと思います。では、それぞれの班で話し合った内容について発表していただきます。
- ：（1班）だいぶ意見が沸騰しました。いろいろな話題が出ましたが、みんなで最後に共有したのは、この「歩きたくなるまち新宿」というのは、この分科会にとってはバラバラで、これを活かしてもどうしようもないと。これを活かすのではなくて、新たに観光も文化も商業も商店も産業も作り手も全部はやはりランドデザインの中にトータル的に、グローバルにまとめていかなければ活性化しないだろうというこ

とです。その中でシャッター通りや、落合地域が活性化に向けて活動していても時代の流れになかなか乗り切れない、対応しきれないという地域性があります。グランドデザインは、とてもよくまとまっているが、そういう点に対応しきれしていない。しかし、まとまっている利点を活かせば、将来的にどうにかなるのではないかという発想もこの班で出てきました。それから伝統産業の後継者の養成や、PR、ここで伝統産品をお店に並べるだとか、私たち消費者もそういうところでいろいろ教わるとか、そのまわりにお店が出来るとか、そういう事はやはり建物がないと出来ないのかもしれない。染色、印刷等のものづくりの人達と、わたしのような消費者と、文化的江戸時代から繋がるようなもの、そういうものを観光の中に組み込めば、グランドデザインになるのではないかと思います。それから、オペラシティですが、周辺が行くのに怖い状態ですから、これもやはりサンシャインのようにすでに活性化しているところのように、計画的に、国や東京都等いろんなことが絡んでやれたらいいのではないか。そういう大きな発想もこの班では出ました。

○： ありがとうございます。では2班、よろしくをお願いします。

●：(2班) 5人及び学生の方で議論をしました。産業・文化・観光の点でこれからの新宿区の将来についてどうあるべきなのかという視点で議論しました。まず文化の面では、新宿区には外国人の方が多く住んでいるので、異文化という捉え方をして、外国人の方の人的資源を活用できればいいという話が出てきました。また、最初の方で「歩きたくなるまち新宿」が出てきましたが、歩きたくなるまちの大前提として、自転車のマナー、喫煙者のマナーが悪いという指摘があったので、そういうマナーの向上、重視が図られるといいまちづくりができるのではないかということをご話し合いました。続いて産業に関してですが、産業・文化・観光の中で一番メインに話し合われた感じがします。大きく分けて2つの考え方がありました。一つ目は、小さな商店街を大事にしていこうという考え方、もう一つは、そうではなくて、商店街が大きなビルみたいなものを作って、そこにみんなが一つに入り、それで皆で活性化していけばいいのではないかという案が出ました。例えば、一つのビルを作って、皆で経営していけばいいのではないか。また、個人のお店が商店街にあると統一性がとれていないので、統一性のとれる体制をとった方がいいのではないかという意見も出ました。一方、以前にも話し合われたことですが、小さな商店街を大事にしていこうという意見がでました。また、伝統産業の位置づけという事が出てきました。染色業が典型例になると思うのですが、例えば、新宿区にあるホテルなどで積極的に伝統産業の商品・作品を使ってもらったり、それを区が間に入って斡旋できればいいのではないかという意見が出てきました。実際、京王プラザホテルでは新宿の染色製品を従業員の方が着ているという例があるようです。また先週「新宿こだわり大賞」という話が出てきたかと思いますが、お店でその賞をとったなら、それをお店の中でPRすることも必要ではないか。また観光につい

てもいろいろな意見が出ました。基本的な例としては、新宿区の特徴のある文学・史跡の活用ですね。もう一度整理してPRしていこうという話が出てきました。また、高層ビルそのものが観光資源になっているのではないかという話が出ました。そういうものも重視していけばいいのではないかと。新宿区民の方が、遊びに来た人に高層ビルを案内してあげる、高層ビルボランティアのような方がいると面白いなと、そういうボランティアの中に高齢者の方や地元の方、あるいは外国人の方が活動していただければと、そして、ボランティアなのでできれば無料でやっていただければ費用がかからなくていいかなと思います。あと先週、橋本先生が紹介してくださったスタンプラリーの話も出てきましたし、四谷の迎賓館のような目立つ建物が一つあればいいなとか、また、ビジターに優しい案内板、説明板の設置の必要性があるのではないかという意見も出ました。案内板、説明板の設置と設置後のアフターケアですね。そういうところに行政が指導力を発揮して維持発展していければいいのではないかと。また、産業・文化・観光の共通点としてPR方法の話が出ました。区のHP、メールマガジンの発行等の意見が出ました。あとは、観光のメリットを活かすために道路を広くすべきだという基盤の話が出てきました。以上です。

5 まとめ

- ： どうもありがとうございました。今の発表をふまえて廣江先生からまとめをしていただきたいと思います。
- ◎： まとめてしまうということではないのですが、もっといろいろ出さなければならぬと思います。例えば、先程観光資源で出し合ったものを整理していくというお話がありましたね。その作業をするにあたって今まで出していた情報もありますが、まだ足りないと思います。もっといろいろ皆さんのやってこられたことや経験していること、知っていることを出していくと、どういうデータベースになるのか。先程Aさんが、おっしゃっていましたが、今までにまだ出てきていない観光資源のいろいろな話が、まだあるわけです。それをもう少し整理する必要があると思いますが、その話を出しあう方法はというふうにするとういと思いますか。
- ： ペーパーはもちろんですが、先日、中間のまとめの打合せで、他の分科会が何をやっているのかを知る機会がありました。今まで第5分科会はワークショップをする中で共通認識を深めてきたわけで、良い方向ではありますが、まだ十分ではありません。せっかく出てきた話をもっと深く掘りさげると、見えてくるものもあるのではないのでしょうか。先程も具体的な話が出てきましたが、それをどう取り上げ、進めていけば良いでしょうか。
- ◎： 何があるかというのは事実の問題ですよね。事実には見える事実と見えない事実があって、議論していると見えない事実も見えるようになってくるわけです。そういうものを皆さんに知らせるように、どうやってまとめていったら良いかというのが

ひとつ。その上でまた議論が進んでいくのですね。まずはネタをどうやって集めていこうか、そしてそれをどう整理していくか。今日出た話は、後でまとめていただきます。しかしそこに話した全ての内容が載っているとは限りません。先程のように観光として意見を出しあったものを整理する時に、出た意見をどんどん蓄積していくといった事をしないと、皆さんが考える材料にはなりません。まずはそこをどうしましょうか。以前、素材シートを出していただきましたが、それ以上に今日の話はより具体的ですよ。

- : グループワークの話をして2～3分でまとめたものがありましたが、それをもっと充実した形で行えば話が進むのではないかと思うのですが。この分科会だけで出た話は他のところでは理解してもらえないでしょう。
- ◎ : 共通のデータベースにして誰もが見られるようにしたい、ということですね。新宿という広い範囲で見た際に、落合はどんな所であるかわかったら、そういった情報を積み重ねていって誰でも見る事が出来るようにしたい。何があってなぜそれが面白いのか、どう使えるかということが考えられるので、その整理を一つしましょう。それと新宿には外国人が多いので、異文化をどう扱うか、どう利用するかという話がありましたが、どう考えると良いでしょうか。確かに外国人は多いですが、だから異文化だと簡単には言えないでしょう。ならどうやっていったら良くなるでしょうか。例えば、韓国人だったら集まる単位にキリスト教会がありますよね。それから国民の出身地によって集まってくる単位が違う。そこへどう働きかけるか、それがどう分布しているか分かるかといった、少しずつ具体的なところに話を進めないと新しい動きにならないと思います。これをどう考えますか。
- : 今、先生に言われて教会は確かに大きなポイントだなと思いました。ビルの一階や二階に小さな教会があったりしますし、他は日本語を勉強する学校もあちこちに分散してありますよね。そういうところを活用したらどうでしょうか。
- ◎ : あとは代表的な著名人もいますね。そういう人たちをどう活用していけば新宿にいる人にとってもっと良くなりますかということです。
- : ちょっと思いついたのは韓流スターのグッズを買い物するのに、職安通りを韓国の方にボランティアで案内してもらおう。例えば、難しいかもしれませんが、行きたい方が区役所に希望を出して、区に登録してあるボランティアの方に連れて行ってもらえる楽しいまちになるのではないかな。
- ◎ : それは、今あるということはわかっているのだが、新宿で既に生まれているものをどう表に出していこうか、ふれあいの機会をどう作っていこうかということですね。ふさわしいかは別の議論として、例えば、ボランティアなどを通じて要はもっと表に出していこうという事です。それから染色の話は商工観光課でもやったことがあるのですが、なかなか続きがありません。マーケットをどう見つけていくかが課題ですね。染色業を営んでいる方にふさわしいかということもきっちり考えなくては

いけないと思います。今日は出てこなかったことで私が考えたいと思うのは、新宿区の中で食べていける仕組みをどう作るかということです。外から入ってくるだけでいいのか。また新宿で生活する上で、そこに生活の基盤が無ければいけません。そのため食べていく仕組みが、特に地場産業では重要になってくると思います。そういったことが表に出て、同時に発想は大胆であっても多くの人を説得できる材料を用意しなければなりませんから、その材料とそれがなぜ良いのかを考える必要があります。それにあわせてチェックをしていくと「グランドデザインはもっとこうあるべきじゃないか」とか「こういうふうに書いてあるとここに書いてあることがもっと実行できるのに」とか「ここを実行するためにはここに書いてあることを書き改めて欲しい」といったようにまとめていく必要があるかと思います。まだ短い時間でやっていますから事実をどうまとめていくか、議論をどう深めていくか、残りの時間でどうするかですね。

- : 話に出た中で染色の方々の関心事は自分たちの技術が地域や後継者に繋がっていかないということ、現在、染色産業として生業とどう繋がるかという展望がなかなか掴めないということでした。この展望を掴めないという点は商店街にも共通するものがありまして、落合の地域に例えば、染色と商店街と文化をつなげる染色会館というものを作れば、回遊の拠点になっていくのではないかと。営業の面から考えると目白通りに作ることは中井に作るよりもメリットがあります。目白通りの商店街も染色業と連携していく必要があると感じました。目白通りにギャラリーが増えてきたという話をしましたが、この方々の商売の仕方は現代の社会の動きに合わせて機敏に動いているので、私たち商店街も勉強していく必要があると思います。そして具体的な要望を出すにあたっては地域のまちおこしの形になってまとめていくことになるのかと考えました。
- ◎ : 具体的に議論しながらそれを大きなくりでまとめていかないといけません。私は染色会館には反対ですが、それはまた議論しましょう。要は業界が食べていける仕組みが必要なわけですね。食べていけるようになれば新しい人は業界に入ってくるだろうと考えたら、どうやって食べていけるようになるのだろうと考えます。その時にいくつかの方法がありますが、まずは染色であれば和服を買う人が増えるかあるいは全体は変わらないけれど比重が高まるか、そうやって考えていくと解決しなくてはならない事がでてくると思います。そして、その解決する手段と順序をきっちり考えていただいて、それを新宿区の中で実現していくためにはどうしたら良いのかということに知恵を集めたいと思います。和服を買うといっても和服を着なくても良いかもしれませんが、鑑賞用でもかまいませんが、人が増えなくてはならないとなった時にどうするか、建物といわなくてもまだできる事は実はたくさんあると思います。こういった知恵を集め、体系化されたものとなって、グランドデザインの中の技術継承について「だったらこういうふう考えた方が技術は自然と伝わり

ますよ」と提案できるものにします。そうでなければただ骨董品を守るといった状態になってしまいます。それは業界にとってもふさわしくない事です。そこを具体的に議論していきたいと思います。

- ： 地場産業には印刷と染色、大きく二つありますが、両方とも共通して言えるのは今までは、どこの事業所でもひとつのところで一通り器用にすべてこなしてきた、悪く言えば器用貧乏の時代でした。ただこれだけ業界にとって時代が厳しくなると、消費者ニーズも厳しくなるので中間の仕事がなくなってしまった。極端に言えば、1万円の仕事と100万円の仕事位の差が出てしまった。そうした中でこれからどういう共通したものを抱きながらやっていけるかというのがグランドデザインの部分ではないかと思います。今の産業界は何かイベント的にやってしまうので一過性に終わってしまう事が多い。こうなるといわゆる一品製作、芸術家的、デザイナー的にやっている人とは歩調が合わせられない。ですからグランドデザインの段階では作業環境をいかに維持改善するかということで、共通の課題、リスク、メリットもって公平な配分が出来る状況はどこなのかという事をやるべきだと思います。失敗例は言っても成功例は言わないのが産業界の常です。成功例を言う頃にそれを始めても遅いですから、逆に悩みの共通点から「こういうことをやってみようよ」と誰もができることを商店街含めてやっていただくことによって歩きやすい、住みやすいという前提には、やはり食べていける生活が無ければ話が進みませんから、社会にあわせてどうしたら生業として成り立たせる事が出来るのかというのがこれからの産業のテーマではないかと思います。

6 中間発表会ワーキンググループより報告

- ： どうもありがとうございました。本日模造紙に書いていただいたものは事務局でまとめ、次回皆さんにお返ししますので、さらに議論を深めていっていただきたいと思います。今日から中間発表の2月19日まで、分科会はあと6回あります。それで検討のイメージですが三回程度検討を深め、後半でまとめるといった方向で進めていきたいと思います。先日、中間発表に向けてワーキンググループの打合せ会がありました。そこでは第1～第6まで各分科会の代表で話し合っていました。まだ一回目なのでそれほど詳しくは決まっていますが、内容について、出席された委員からご報告いただきたいと思います。
- ： 一回目の会合では、各分科会の現在の状況を話し合いました。まだほとんどの所がまとまっていない状況です。第5分科会のように、産業、文化・観光とテーマを分けて、グループワークを行っているところは良いのですが、テーマ別にグループを分けてグループワークを行なっているところは、まとめるのに苦労しているようです。この分科会は廣江先生の努力のおかげで、とてもよく進んでいると思います。中間発表の開催目的は「他の分科会の動きを知る」「分科会同士のコミュニケーション

ンを図る」「区民の意見を知る（会議に関わっている人以外）」という3つの柱です。このような意見を知るには経過報告が無くては意見も出ないだろうということです。ほとんどの分科会において中間発表は経過報告ですので、質疑応答をする時間はあまりないようです。そして各分科会の発表は各20分で自由な発表にすることでした。意見交換は時間的にも難しく、回答できる経過状況でもないので意見を他から頂くという事だけになるでしょうという話でした。そして意見をいただく方法は次回までの宿題という事になりました。その方法は皆さんのご意見を会議である程度いただいていきたいと思えます。意見をまとめる方法と、すぐにまとまらないようでしたらメールやファックスでいただきたいということでした。

- ： 以上の通りです。決定した事は各分科会の発表時間は20分という事と、発表の方法については各分科会に任せてそれぞれが創意工夫して行うということです。次回のワーキンググループまでの宿題で出ているのが、中間発表で皆さんが発表して他の分科会の方々や区民の方からどのような方法で意見をいただくかという事、また当日の進行イメージとか会場レイアウトの方法ですが、何かアイデアがあれば事務局にお電話、ファックス、メールでご意見をお願いします。
- ： 少し補足します。中間発表は中間のまとめの発表というのは難しいので「まとめ」ではなく経過を報告するものになるという事です。あとは要望を具体的なものできると発表の時に話せるのではないかと思います。

7 事務連絡

- ： 意見をいただく方法として、会場に箱を置くとかメールをお寄せいただくとかアイデアがあればご連絡ください。ワーキンググループはあくまで作業の打合せなので、まとめなどこれからの作業は皆さん協力してやっていただく形になります。
- ◎： グランドデザインの取扱いはこちらですか。
- ： 担当は都市計画部です。
- ◎： では都市計画部に質問ですが、「歩きたくなるまち新宿」に対して「住みたくなるまち新宿」ということについてはどうお考えなのかご回答頂きたいと伝えてください。
- ： では、次回、担当者に事務局からコメントをもらい、皆さんにご報告します。

* 次回の日程について

- ・ 12月15日（木） 19時～21時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

* 1月の日程について

- ・ 1月12日（木） 19時～21時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室
- ・ 1月24日（火） 19時～21時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

* 2月の日程については、次回決定する予定です。

以上